

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0270600356		
法人名	有限会社 十和田だいち		
事業所名	グループホームはなは		
所在地	〒034-0052 青森県十和田市大字藤島字中道52-1		
自己評価作成日	令和4年7月31日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	令和4年9月27日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	出勤時に基本理念を確認できるよう、事務所に掲示している。また、年度初めには個々に目標をたて、同時に前年度の反省を行いながら、理念を再確認している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しており、地区の行事に参加して伝統芸能を披露してもらっていたが、コロナ禍において行事が行われず、交流ができていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市役所が推進している「いきいきボランティア」を受け入れていたが、感染予防のため、今は受け入れできていない。地域の方々等から認知症について相談があった時は、助言を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	感染予防のため、書面にて行い、地域包括支援センターや地域の方々に参加していただき、施設での取り組みを報告している。電話等でいただいた意見は議事録を作成し、全職員で共有してサービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナ禍のため、現在は電話やメールで相談、指導をいただいております。生保の方に関する手続きや本人の状況把握等のやり取りも行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	コロナ禍のため、全員参加の勉強会ではなく、資料にて3ヶ月に1回勉強会を行っている。入居者様が安心して生活できるよう、安全の配慮や不適切部分、改善点を見つけ、身体拘束をしないケアを行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と併せて虐待について研修会を行い、入居者様が不快な思いをしないよう、全職員が「虐待は絶対してはいけない」と常に意識し、ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、権利擁護を利用している方が2名、成年後見を利用しているのは4名おり、必要に応じて各機関と連携、協議しているため、職員は理解している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前にご家族から不安な事や疑問な事を聞き、誠実に対応、説明をしている。入居後も不安な事があれば、いつでも相談することを伝えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様とは毎日コミュニケーションを取り、表情や言動から思いを汲み取れるように努めている。ご家族とはコロナ禍のため、対面での会話は難しいが、何か意見をもらった時はすぐに対応している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者はほぼ毎朝訪れ、職員や入居者様に声をかけてくださり、不安な事があれば相談し、助言をくださる。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	3ユニットあるため、勤務変更があっても協力し合い、働きやすい環境を整えている。年1回の健康診断やインフルエンザ予防接種、毎月の検便検査等、健康に就労できるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は外部研修を積極的に勧めてくれて参加していたが、今は感染予防のため、参加を自粛している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームと毎年交流会を行っていたが、コロナ禍のため、現在は交流できていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	今までの生活とかけ離れないように配慮し、コミュニケーションを多く取って信頼関係を築き、施設で安心して生活できるように配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族がケア等に対して不安な事がある時は、抱え込まずにいつでも相談するように伝えている。また、信頼関係を築けるよう、誠実に対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何が必要なのか、本人やご家族の意向から見極め、関係機関とも連携して情報収集し、今までの生活をスタイルを大切にしたい支援ができるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様が持っている暮らしの知恵、物事の捉え方等を職員は学び、影響を受けて支え合っている。また、入居者様主体の生活の場だと意識している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍のため、面会を制限してガラス越しの面会のみだが、お互いの意思が通じるように支援している。また、遠方の方には定期的に写真や手紙を送り、入居者様にとっての生活の在り方をどのようにしたらいいか、ご家族と共に相談、協力し合う関係になっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルス感染予防のため、面会制限行っており、会うことができていない。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係性や性格等を把握し、お互いを認め合い、交流を深められるよう、必要に応じて職員が介入し、交流支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もいつでも相談や支援に応じることを説明している。また、住み替え時に混乱を招かないよう、必要時は承諾をもらって情報提供し、安心してサービス受けられるように支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	気持ちを明確に言える方にはその訴えをしっかりと聞き、職員同士で共有している。意思を明確に出せない方は、表情等から気持ちを汲み取るように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人やご家族から情報収集し、普段の会話の中からも情報を得て、生活スタイルを把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中での行動や言葉を記録している他、職員全員で共有できるように申し送りノート等に記入し、把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の記録を基に毎月のモニタリングを行い、ミーティングやご家族の意見をお聞きし、ケアの検討を行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活の中での行動の変化や言葉を個人ケースに記録し、ケアの工夫は連絡ノートにて共有しながら、ケアの見直しにつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	臨時受診等は必要に応じてご家族に相談し、受診介助を行い、柔軟に対応している。入院時のオムツ補充や洗濯物も施設で行う等、都度臨機応変に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎年様々な町内会行事に参加していたが、コロナ禍のために行事が中止となり、交流できていない。災害時における協力体制ができており、安心して生活できている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	代表者が主治医であり、ほぼ毎朝一人ひとりとコミュニケーションを取ってくださり、不安等をいつでも相談できるため、入居者様の安心につながっている。また、母体が医療機関であるため、24時間サポートしてもらっている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は週2回の勤務体制であるが、24時間連絡、対応できる体制を整えている。様々な処置や健康管理を行い、情報共有をして、必要時には主治医と連携し、入居者様の不安解消や健康維持に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には必要な情報提供を行い、スムーズに治療が受けられるようにしている。退院時には関係機関と連絡を取り、退院後の注意事項を聞いて職員で共有している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化に関する指針」を整備し、終末期対応についてお話ししている。都度、本人やご家族の意向を確認し「その人らしい最期」を迎えられるよう、職員全員で日頃の関わりを大切にしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し、定期的に看護師や管理者が実践的に手順の確認を行い、習得している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	コロナ禍のため消防立ち会いでの訓練は行っていないが、昼夜を想定した訓練を年2回行っており防災マニュアル、非常災害(河川、水害)対応マニュアルも作成している。マニュアルには主治医や各関係機関、地区の消防団の連絡先を掲載した組織体制図も掲載している。災害備蓄品も常備し消費期限を確認補充しており、非常食については管理栄養士と相談し助言をいただいている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々、指示や命令口調にならないように気をつけている。また、人生の経験者として個人を尊重し、「その人らしい生き方」を支えることができるよう、職員でロールプレイを行い、適切な声かけができるように取り組んでいる。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人から希望を聞くことは勿論、日々のコミュニケーションから望む事を察知し、できる限り希望に沿うように支援している。自己決定できない方には表情や反応、ジェスチャーを交え、過去の情報も参考にしながら取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々をよく知り、その人らしい生き方、その人に合ったペースで生活できるよう、職員は心がけている。重度化が進み、難しい部分もあるが、表情やしぐさ等を観察して、穏やかに生活できるように取り組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日の天候や季節、気温に合った服装を選べるよう、起床時や入浴前に声がけし、援助している。起床時は髪を整え、男性の入居者様は髭剃りの声がけを行い、衣服の乱れ等をさり気なく整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を提供し、食に対して楽しみを持っていただいている。地域の方々から野菜の差し入れもあり、誕生日には本人から食べたい物を聞いて献立に入れ、ケーキ等を手作りしてお祝いしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を記録し、管理栄養士から助言等をいただきながら、嚥下状態にも注意して形状やトロミをつける等、個々に合った食事、調理方法を工夫している。また、毎月体重測定を行い、状態把握を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きができる方には声かけをして、できるだけ自力で行っていただき、できない方には介助を行い、口腔内の観察を行っている。定期的に歯ブラシやコップの消毒を行い、清潔維持できるように支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを記録して把握し、事前に誘導を行っている。入居者様の仕草等を見逃すことがないようにしており、自立に向けた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの排泄の有無を毎日確認し、水分をできるだけ摂取していただくように工夫したり、日々の食事の中に乳製品を取り入れている。無理のない簡単な体操をする等、支援をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている	血圧測定や体調観察を必ず行い、入浴を拒否する入居者様には声かけを工夫したり、タイミングを計り、無理強いせずに柔軟に対応している。入浴のない日は足浴を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	気温に合った寝具、冷暖房を活用し、気持ち良く眠れるように支援している。寝付けない入居者様には職員が話し相手になったり、お茶等を提供する等し、安眠につなげるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用等を職員全員が理解し、把握できるように個人ファイルに綴じている。服薬の際には人名や日付け等を声に出し、飲み込み確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	楽しみ事として、毎朝大きな声で季節に合わせた歌を唄っている。家事等のできる事を考慮して役割を持ち、張り合いのある生活が送れるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	高齢化や認知症の症状により、外出もあまりできなくなっていたが、コロナウイルス感染予防もあり、施設の周りや中庭の散歩に出かけたり、中庭でスイカ割りをする等、気分転換をしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族からお小遣いをお預かりし、了承を得て、入居様様の希望された物や必要な物を購入している。入出金の流れを明確にし、毎月収支明細票をご家族に確認していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居様様から希望されることはあまりないが、訴えがあった時には対応できるように配慮している。コロナ禍で、県外のご家族の面会が難しいこともあるが、電話の取り次ぎや写真で様子を伝える等の支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間となる玄関やホールには、季節毎の歌や行事写真、一緒に制作した作品等を展示している。冷暖房・加湿器等を活用し、快適に過ごしていただけるようにしている。定時での換気・消毒を徹底し、感染症対策に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ゆっくりテレビを見たい方やおしゃべりが好きな方、横になって休みたい方等、それぞれが心地良く過ごせるよう、声かけや誘導等の対応を行っている。トラブルにならないよう、気分や表情の変化をしっかり見守っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族や本人と相談し、使い慣れた家具や寝具を持参していただき、配置している。希望に合わせ、手紙や各行事の写真等を飾り、居心地の良い空間となるように工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室やトイレ等は大きく見やすいように掲示をし、わかりやすいようにしている。施設内はバリアフリーとなっており、手すりも設置されているが、歩行運動や車椅子の自走で邪魔になる物は置かず、安全に移動できるようにしている。		